平成27年度
第１回 中国ブロック中学校社会科教育研究大会（広島大会）
第46回 広島県中学校社会科教育研究大会（福山大会）
～大会のまとめ～

研究主題 「生きる力を育む社会科学習の創造」

～生徒が自ら考え学ぶ授業づくり～

期 日　平成27年11月９日（月）

会 場　福山市立城南中学校（授業公開）　まなびの館ローズコム（分科会・全体会）

主 催　中国ブロック中学校社会科教育研究会　広島県中学校教育研究会社会科部会

共 催　広島県教育委員会

後 援　全国中学校社会科教育研究会　鳥取県教育委員会　島根県教育委員会
岡山県教育委員会　山口県教育委員会　福山市教育委員会
広島県公立中学校長会

目　　次

あいさつ　2

記念講演のまとめ　3

分科会のまとめ　6～18

○　地理的分野　福山市立福山中学校　教諭　長谷川　進　6～9

○　歴史的分野　福山市立鞆中学校　教諭　前田　良介　10～14

○　公民的分野　広島市立城山北中学校　教諭　松原　直哉　15～18

授業者の感想　19～24

○　地理的分野　福山市立城南中学校　教諭　村本　彩子　19～20

○　歴史的分野　福山市立城南中学校　教諭　榊原　誠　21～22

○　公民的分野　福山市立城南中学校　教諭　渡邉　頼史　23～24

参考資料（アンケート調査・大会要項）　25～30

あいさつ

第1回中国ブロック中学校社会科教育研究大会
第４６回広島県中学校社会科教育研究大会
実行委員長　友道　健氏（大成館中学校校長）

11 月 9 日（月）福山市立城南中学校・まなびの館ローズコムにおいて，第 1 回中国ブロック中学校社会科教育研究大会および第 46 回広島県中学校社会科教育研究大会が行われました。全国中学校社会科教育研究会　石上和宏会長様，広島県教育委員会田坂裕一参与様，福山市教育委員会　三好雅章教育長様をはじめ，中国 5 県はもとより四国全県よりもさらに遠くは，九州，東海・北陸地方からも参集していただき，170 名を越える参加者により真剣に協議することができたこと,心より感謝申し上げます。

本大会の最も重要な意義は，中国ブロック中学校社会科研究会が設立された後の記念すべき第 1 回大会であるということです。平成 27 年 7 月 4 日（土）岡山市において中国 5 県の中学校社会科研究会会長が集い,第 1 回の理事会を開催することができ，正式に「中国ブロック中学校社会科教育研究会」を発足できました。おりしも中国地方では，平成 28 年度には岡山県において，翌 29 年度には島根県において全国中学校社会科研究大会を開催されることが決定しており，全国大会にも通じる中国ブロックでの第一歩を踏み出さなければならない責務を感じたのです。

福山市中学校社会科教育研究会では，岡山大学大学院教育研究科　山田秀和准教授から足かけ 2 年に渡りご指導を仰ぎ,授業研究を中心に研究を推進してまいりました。多くのご示唆やご助言をいただき，授業者である若い教員はそれに応えるべく切磋琢磨してまいったのです。「脱皮する社会科」「生徒の変容をうながす教師のつっこみ」「分野や教科の垣根を越える」「具体と抽象の往還」など，ご指導いただいたキーワードからも社会科として思考をふかめるための大きな示唆を頂戴できました。

本大会の取組を通して「人材育成」という視点でも考えました。本大会での授業者・レポート提案者は 20 歳代・30 歳代の教員を指名しました。若い教員に発表する場を与えることで成長する一助となればと思ったのです。これら若い教員が今後の福山市や広島県での社会科教育の推進役としてさらに成長することを願っております。

また，授業提案をした福山市城南中学校は 5 年前，第 41 回広島県中学校社会科研究大会で発表しております。当時の校長は，この大会をあえて引き受けることで学校全体を変革していこうと考えたのです。5 年前の城南中学校と今回の大会を比較してご覧になった参加者もおられます。「学校は変わった」ことを実感いただけるのではないでしょうか。それは，本大会を受けることで，教職員のベクトルが徐々に一つにまとまることでの努力の積み上げの成果だと考えています。

最後になりましたが，本大会にご支援，ご指導，ご助力いただきました岡山大学山田秀和准教授をはじめ広島県教育委員会，福山市教育委員会および全国中学校社会科教育研究会、中国 5 県の関係機関に対し心よりお礼を申し上げます。

平成２７年度
第　１回　中国ブロック中学校社会科教育研究大会（広島大会）
第４６回　広島県中学校社会科教育研究大会（福山大会）　記念講演記録

演題「課題発見・課題解決の力を育成する社会科授業づくり」

岡山大学大学院教育学研究科　准教授　山田秀和先生

１．子どもが知的に成長するためには何が必要か。
○「つっこみ」をいれること。
○具体と抽象の往還。
○地理・歴史・公民の分野の垣根をこえる。
○場合によっては教科の垣根をこえる。
○課題発見・課題解決の「性向」を育てる。

２．世界的な動向～アメリカの動向を追いながら～

アメリカでは，１９９０年代に，地理・歴史・経済などの分野ごとにナショナル・スタンダードが開発され，領域固有の学力が示された。

一方，アメリカの社会科教育団体である NCSS（全米社会科協議会）は，社会科の総合性を重視し，社会科のスタンダードを開発した。

２０００年代には,「リテラシー」や「コンピテンシー」「21 世紀型スキル」等の新しい能力の育成が重視されるようになった。近年では,「言語リテラシーを育成しよう」「すべての教科で言語の力を高めよう」という動きも見られる。通教科的な力の育成が求められている

３．社会科の探求のプロセス～課題発見から課題解決までの一連の流れ～

（１）脱皮にむかう「つっこみ」

社会科の授業づくりにおいて，子どもの「脱皮」を促すということを意識したい。子どもが自分の「殻」（見方・考え方）の限界に気づき，それを脱いでいくのが学習であり，社会科だと考える。

新たな事象に取り組ませてみたとき，自分の見方・考え方が通用しなくなれば子どもは「脱皮」せざるを得ない。そのようなバージョンアップ＝知的な成長を連続させることが大切だ。そのためには事象に「つっこみ」をいれることが重要になってくる。

例えば,「交通網は発達したといわれるが,廃止された航空路線も多い。なぜか？」というような「つっこみ」をいれる授業がある。こうした問いで事象に迫ることで，探求がスタートし,「脱皮」が促されていくのではないだろうか。

（２）具体と抽象の往還

具体的な探求過程はどのようなプロセスをたどるのか。本研究大会の地理や歴史の公開授業は「抽象」を想定して「具体」を解明していく授業だと思うが，もう一つの形もある。

一つの地理授業を例にしよう。広島について，福岡や札幌，仙台のような共通する要件を持つ都市と比較していきながら，広域中心地の特質を明らかにしていく授業がある。これは，具体から抽象の概念を導く授業といえる。

具体から抽象へ，抽象から具体へと，具体と抽象を往還させることが大切だ。私たちは具体語を具体語のまま理解できるわけではないだろう。具体語を抽象語に包摂させて理解しているのではないだろうか。そして，抽象の世界と具体の世界を結びつけることで，社会がわかり，世の中を読み解けるのではないだろうか。

（３）分野や（場合によっては）教科の垣根をこえる

具体と抽象の往還は分野にこだわると難しい。具体語の多い地理・歴史と抽象語の多い公民をリンクさせて事象をみていくことが重要だ。そのためには分野の垣根をこえていく必要があると考える。

さらに，教科の垣根をこえて脱皮を促す方法もあるかもしれない。民主主義社会の市民を育成するという社会科の目標に照らして，国語や他の教科を総合していきながら脱皮を促すことも視野に入れて考えてみたい。

４．教師自身のあり方～性向という概念を意識する～

アメリカでよく使われている概念だが，「性向」とか「精神の習慣」というものが日本でも紹介されている。「問い」をもって世の中をながめたり，課題解決に取り組んだりする思考の習慣を身につけていくことが大切だ。

そのためには，教師自身が探求して，思考して，省察していかないと子どもは私たちが期待する方向には育たないだろう。

教師が「つっこみ」をしていくような授業をしないと子どもは「つっこみ」を入れるような人にはならないのではないか。

教師自身が模範となって「つっこみ」を入れながら，生徒も「つっこみ」を入れられるようになって初めて「問う習慣」が身につくのだと思う。この習慣が身

につかないと「課題発見・課題解決の力」は育たないだろう。

教師と子どもで事象に「つっこみ」を入れ，公民で学んだことを歴史で応用したり，歴史で学んだことを公民的な概念に引きつけたりして問いを探求していくことで，課題発見・課題解決のスタイルができていくのではないだろうか。

育てたいのは「問える子ども」だ。社会の様々な事象に「つっこみ」を入れられる子どもであり，問いに向きあうことのできる子どもである。この力を伸ばしてあげたい。「問う力」を総合的に育てていくことが，これからの社会科に求められると考えている。

（講演内容要約）

分科会報告　　地理的分野

授業提案	「アフリカ～植民地支配と産業のかかわり～」
レポート発表テーマ	『反転学習とアクティブ・ラーニングの手法を用いた授業の実践』 ～地理的分野「アジア州」の学習を通して～
授業提案者	福山市立城南中学校　村本　彩子　教諭
レポート提案者	福山市立福山中学校　長谷川　進　教諭
指導助言者	福山市教育委員会指導課　清水　修一　指導主事
司会者	福山市立福山中学校　脇　祥貴　教頭
記録者	福山市立東朋中学校　前田　正之　教諭

1　授業者から

「脱皮を促す社会科」を目指して授業改善を進め，習ったことでは説明できない疑問を生徒から出させることを念頭に，既習事項とのずれを意識させるような導入の工夫をしてきた。最後の単元となり，経済発展が著しい反面，貧困の悪循環から抜け出せない現実に主題をおくこと，本校生徒の課題である思考力・判断力・表現力を育成することをめざして授業を考えた。（指導案からの３つの変更点の説明のあと）

授業反省として，導入でめあてを出すのが教師主導になったこと，まとめで（本校の特色である）生徒が意見を述べるための書かせる時間を十分に確保できなかったことがある。

2　研究討議（授業提案）

質問者：「資料提示が素晴らしかった。どのように資料収集を行っているのか。」

授業者：「資料はできるだけ生きたものを使うようにしている。今回は JICA の国際理解教育ハンドブックを HP から収集しました。他には，ニュース画像，生徒の資料集，統計データなどは情報量が多いので生徒が理解しやすいように加工するなど工夫した。」

質問者：「（生徒が考える）視点をこれらにした理由と，資料からどのようなことを読み取らせて，（最終単元として）最後にどのような活動をさせたかったのか。」

授業者：「前時の植民地支配と産業の関わりから見れば，経済的な視点で学習の流

れを設定するべきだが，（つまずきの把握にあるように）グラフや写真資料から情報を読み取ることはできても，それらを関連づけていろんなことを考えること，表現することが本校生徒の課題となっている。生徒実態を踏まえ，アフリカのいろんな面を見せるにはどうしたらよいかと考えて今回の授業となった。アフリカが貧困から抜け出せない理由を捉えさせたい。それは様々な要因が複雑に絡み合い，悪循環で抜け出せないでいることに生徒の考えをもっていきたかった。最後の活動として，指導案では『もっと調べたいことを書く』となっているが，「アフリカが貧困から抜け出すために必要なこと」，さらに発展させて『自分自身にできること』を考えさせ，自分のことばで述べさせたいと考え，目標とした。」

質問者：「人口増加も要因の１つだと考えられるが，どのように教えたのか。」

授業者：「ほとんど扱っていないが，２年の学習内容との関連づけの必要性は感じている。また，食糧問題で意見があった時には関連づけ，発展させた。」

質問者：「ホワイトボードやグループのまとめ方へのこだわり，指導法はあるか。生徒から『無限ループ』といった表現も出てきて驚いたのだが・・・。」

授業者：「ボードは全学級に班数分が用意され，全ての授業でいつでも活用できる。生徒にまとめさせ，表現することに慣れさせてきた。中には落書きなど不適切なものもあったが，ある程度受容して全体の場に出して指導をし，生徒が自由な発想で書ける空間となるように授業で活用してきた。」

※　他に，資料配付やワークシートの活用に関する質問，「めあて」で解決策まで提示すべきか否かの議論などもあった。

３　レポート提案者から

反転学習は，予習として知識の習得を家庭（宿題）で行い，授業ではその応用を行う授業構成の工夫の１つである。アクティブ・ラーニングは，従来の知識ベースの学びから，自ら主体的に学び，多様な価値観を身につけ協働して活動していく力を育む学習方法である。

本実践では，自作ＤＶＤ（約15分）を事前に個人に配布して家庭で学ばせ，最初の授業で見取り問題をペアで解かせて確認する。

次に仮説に基づき配布資料を使って各テーマを調べ，ローテーションで発表して学び合うジグソー学習を行った。家庭学習と授業の密接にリンクした授業構成のパターンができたことはよかった。一方で，教える生徒のレベルで左右される部分もあり，どのようにフォローしていくかが今後の課題だと思う。

質問者：「ＤＶＤの準備など大変だとは思うが，どのように行っているのか。」

提案者：「40 枚程度の作成なので経費はさほどかからない（回収もする）。作成も毎回ではなく，単元を決めて行っている。また，歴史では家庭で教科書に線を引いて授業に臨み，授業の最初では疑問に思ったことなどを発表させている。これも反転学習の１つだと考えている。教育機器の制約もない。」

質問者：「私は，自分で授業を進めていく方が早いので，あまりアクティブ・ラーニングを行ったことがない。実践する中で，どのような困難さがあるか。」

提案者：「村本先生の授業もアクティブ・ラーニングでしたが，実践ではやはり時間配分がとても難しい。自分で進めるのなら時間調整もできやすいのですが，生徒が学習を進めるので，その時間配分の見極めが難しく，クラス実態の違いも大きく影響してくるので，その部分の見極めも大切になってくる。

また，本当に必要な部分でのアクティブ・ラーニングなのか，を問う必要もある。アクティブ・ラーニングは，あくまで手法の１つである。授業のねらいを明確にし，そこに迫るために本当に必要なのかを考えることも大切だ。」

質問者：「全５時間の計画だが，これでアジア州の学習は終わるのか。」

提案者：「第２次の授業の揺さぶりの時に，地形について教えた。覚えていない生徒がいたからです。逆にいえば，理解できている生徒とそうでない生徒で確かに差が出てきてしまっている。このことは課題だと考えている。」

質問者：「私も定着させる・習得させる部分と，アクティブに進める部分の兼ね合いに悩んでいる。その点は，どのように考えているか。」

提案者：「一般的には，学ぶべき内容を教えるのではなくて，学び方を教えるというように転換しなくてはいけないと言われているが，それをどう進めるのか。全部を教えるのではなく，もっと絞ってこのように学んでいくんだよ，と思い切ってやること。もっと言えば，テストもそのように変えていかなくてはならないと個人的には考えている。しかし，（現状では）学力保障ということで，補習という形にならざるをえないとも言える。」

※　他に，アクティブ・ラーニングを踏まえた「生徒に主体的に学習課題をつかませた実践例」を求める意見などもあった。

４　助言者から

（１）授業について

・主体的な学びには，①能動的な学び，②学習者起点の学び，③深い学びの

３つがある。①②から，導入を工夫して生徒から課題を引き出していく，課題を発見させていくことが重要である。本日の授業は比較できる資料の提示があったが，生徒にズレを感じさせ，思考を揺さぶることで課題を引き出すことがでる。「抜け出せた国は，どうやって抜け出せたのか」「他の国とどんな点が異なるのか」といったことを生徒に考えさせ，思考を深めることは重要です。また，教師の言葉から生徒はイメージを持つことへの留意も重要だと思います。

・生徒はよく書いており，日頃から思考して書く取組ができていると感じました。

・生徒が資料の中から探す作業（技能）にとどまっていましたが，思考の場面ならそれに相応しい資料の提示とその活用ができると，③により近づけるでしょう。

（２）レポート提案について

・アクティブ・ラーニングは，１単位時間とは限りません。何を知っているのかは大切だが，習得した知識や技能を定着させ，なおかつ活用する場面を設けて課題解決することも大切であり，１単位時間で対応するのが難しい部分もある。単元全体を通して，計画的に身につけてさせることを考える必要がある。

・従来のような講義形式で知識の定着を意図的に図っていく場面があってもよい。これに基づいて課題解決を行っていくような単元構成を組み立てていくことで，アクティブ・ラーニングになると考える。

（３）最後に

・単元が終わった時に，子どもたちにどういう力がついていればよいのか，子どもたちがどういう姿になっていればよいのかを明確に持って，そこに向けて１時間１時間を組み立てていくこと，そして単元全体を貫く課題を設定する場面があればさらによいだろう。単元構想をするときには，明確なゴールから逆に単元構成を組み立てていくようなつくりで単元構成をするとよいだろう。

分科会報告　　歴史的分野

授業提案	「近世の日本～近世の福山～」		
レポート発表テーマ	「地域教材を用いた，生徒の思考力を育成する授業 ～なぜ江戸時代期の鞆の浦は，海運の拠点として発展したのか～」		
授業提案者	福山市立城南中学校	榊原　誠	教諭
レポート提案者	福山市立鞆中学校	前田　良介	教諭
指導助言者	広島県教育委員会義務教育指導課	向井　昌行	指導主事
司会者	福山市立鞆中学校	植田　昌広	教頭
記録者	福山市立新市中央中学校	重元　祐子	教諭

1　授業者から

「近世の日本，とりわけ江戸時代初頭の状況とふるさと学習のテキストを使い，福山の重要性を捉えさせたいという思いから設定した。レディネステストの福山藩主の名前等の定着が不十分であったため，福山に関する興味が低いのではないか，ということで福山という地について，当時幕府がどのような地と位置づけていたのかという所を捉えながら授業を進めた。

『将軍がなぜ福山の城づくりに協力したのか』というめあてを考えたが，めあてに意味があったのか疑問が残る。福山の重要性を，どのようにテキストを使って考えてくれるか，資料を読み取ってグループで話し合って深めてもらいたかった。話し合いの時間を十分とり，子どもに思考させる時間をとれたらよかったが，不十分だった。また，まとめでもう少し時間をとって丁寧に付け加えをすればよかった。最後のチャレンジ問題自体の内容も検討してもらい，意見をいただきたい。大名配置を通して福山の重要性を考えさせたいと思い，図を取り入れた。ＩＣＴで消えてしまうので，効果的に使う授業，活用して行う授業を意識したため板書が少なかった。効果的に取り入れる方法を教えてほしい。引き続き，その都度ふるさと学習を取り入れ，福山について学ばせたい。」

2　研究討議（授業提案）

質問者：「中心発問の前後に似たような発問が，違う性質なのか３連続で出てきたため，生徒はどれについて考えればいいのかわからなくなるのではないか。『福山がなぜ将軍にとって重要だったのか』が今日の授業のメインになる

のではないか。伏見櫓が江戸，大坂，福山にしかないということを考えさせ，それを生徒はどう思ったのかにも注目してみてもよかったのでは。また,「伏見櫓があること＝福山の城づくりに協力」につながるのか疑問である。協力したとする要素は陸上交通と海上交通の面だけなのか。要素がこれだけならば，福山ではなく別の地域でもいいのではないか。もし他に要素，理由があるのならば，資料が不足しているのではないか。」

授業者：「問いの構成で，３つ連続して共通したような形で設定しているのは，１つの問いをさらに詳しく問うために３段階にしているからである。将軍が城づくりに協力したことと伏見櫓との関係を示す証拠は不十分であり，発問の仕方についても精選をしていくこと，教材研究をさらに進めたい。」

質問者：「今の広島県内，中国地方の状況をみると，福山市よりも広島市の方が大きい。前時に大名配置を勉強しているならば,『広島と岡山が外様の中，なぜ福山に親藩を置いたのだろう』にすれば福山に興味を持つことになり，生徒が主体的に考えることができる授業になるのではないか。自力解決のところで，福山は重要な地という言葉がある。子どもたちが，福山が重要とどれだけ実感しながら考えていたか聞きたい。」

授業者：「先生が重要だと言っているから重要なのだ，となってしまったような気がする。こうだから重要なのだ，という根拠をもとに考えさせればよかった。」

質問者：「『大好きふくやま～ふるさと学習～』はどのようなスタンスでつくられたのか。その資料を使って調べた生徒の発表を見ていると，福山が重要というよりも瀬戸内海・山陽道が重要だ，という所の方が強調されている気がする。また，振り返り表を実践としてどのように使っているのか，教員がどのように活用しているのか。」

授業者：「資料は市内小中学校の社会科教員が原稿を書き，福山市教育委員会が編集して作成され，社会科だけでなく，横断的に使用している。振り返りには，授業を通してなぜだろうと思うこと，それに対して自分ならどのように考えるか，どのようなことを授業で学んだのか，を書かせている。子どもの理解度を量るとともに，教師自身の授業の構成を反省し，改善するために活用している。」

質問者：「府中や福山が，山陰につながり，瀬戸内の中心として古代から重要地であるということを幕府は認識していたから親藩・譜代を置いたのだ，ということを生徒にこれらの資料から読みとらせることができないか。文章を読み，それを使う

だけで終わっている。

いくつかキーワードが出てきた時に,『なぜそう思ったのか，他の場合はどうなるか』という推量を入れて膨らませることで，福山は重要な地だということとリンクさせて考えさせることができ,思考の深まりが高まるのではないか。チャレンジ問題は,『なぜ福山に譜代を置いたのか』という方が授業の流れから言うと子どもには入りやすく,福山の重要性を再認識する時間になると思う。」

質問者:「広島の動きも比較していくことで，福山の重要性を押さえていけるのではないか。阿部正弘に注目してみてもいいのではないか。」

3　レポート提案者から

ふるさとの歴史学習からその時代への興味関心を高めようと，地域教材の活用が有効であると考え，主題設定した。そのために，概念学習の考え方を取り入れた。事物事象の共通性や規則性に関する客観的知識の獲得を図る学習方法である。まず鞆の浦の地形という個別の知識を獲得させ，それをもとに，海底の様子という知識を習得させている。

それらの知識を組み合わせ,概念的思考活動を活用することで,概念的知識『良港の条件』を習得させた。さらに発問を投げかけることで，その知識に『潮流の条件』という別の個別の知識を加え，新たな概念を習得させた。概念に新たな知識を加え，さらに概念を見出させる学習活動を行うことで，社会的思考力を高めるとともに，学習意欲の向上につながると考えた。資料はタブレットを使用して提示し，ワークシートは，概念の習得，新たな概念の獲得に向けて段階的な学びを意識して作成した。

成果としては，地域教材を用いることにより，生徒のもっと知りたいという追究意欲を高めることができ，ワークショップ型の学習による主体的な学習から社会的な概念を習得できた。課題としては，個別の事象にのみ視点が偏り，学習課題に対する思考活動が不十分になる可能性がある。活動が行いやすい視点で課題が設定されていたか，課題は適切であったかも課題である。

質問者:「生徒アンケートから，なぜ１００％の生徒が鞆の浦を好きなのに１１％の生徒が発展に貢献したくないのか，理由がわかれば教えてほしい。」

提案者:「鞆の浦は伝統・歴史のある場所である反面，閉鎖的な環境にあり，少子高齢化が問題になっていることから，鞆の浦以外の地域も見るために外に

出て行きたい，と考え，１１％の“いいえ”につながったのではないか。」

質問者：「単元を通して鞆の浦という地域教材を活用した時に，どのような位置づけをもって江戸時代理解につながるのか。生徒の思考ということについては，身近なことをやることで思考が深まっていき，鞆の浦は西回り航路の寄港地の拠点であったということの理解がどう進んだのかが聞きたい。」

提案者：「単元をこの地域学習のみで通すことは難しく，実践はできなかった。海運の箇所で地域教材として活用している。西回り航路の寄港地の拠点として，鞆の浦と同じ地形のある酒田や牛窓との共通性を見出し，江戸時代に海運が発達した背景を考え出させる発問を最後の時間に行った。それにより深まりは進んだのではないかと考えている。」

質問者：「提案で，予想を生徒がする場面がなかったように感じる。今回はあえてしなかったのか，いつもしないのか。最初に予想をすることによって生徒の学びへの意欲，学習課題への深まりがあるのでは。また，今回の概念構造図に授業を当てはめていくと，最初が地形，次が潮流となるのだが，果たしてそれが新たな概念の習得，社会的思考力になっているのだろうか。」

提案者：「予想については，授業によるので常にではない。構造図の内容をすべて１時間に入れるのは難しく，新たな概念の習得にいくまでの発問が取り入れられなかった。」

４　助言者から

・１点目，地域教材の活用について。地域には歴史学習に有効な教材がたくさんあり，活用することにより歴史的事象を身近な物として捉え，興味関心を高めることができる。また，地域学習を進めることで，地域とのつながりや地域に対する愛着を深めるとともに，社会参画の態度が育まれる。ふるさと学習のテキストは，社会科を中心に系統的に使うことで福山に対する理解や愛着が深まるであろう。

調べ学習等で考察したり,学んだりしたことを社会科の授業で活用することで,社会的事象への理解や思考をさらに深めることにつながる。例えば，福山城，菅茶山，阿部正弘を核として，他の事象と関連づけながら，江戸時代の初期，中期，後期を考察するような授業もできるのではないか。

・２点目，思考・判断・表現力について。資料から読みとったことをもとに発問を工夫し，事象の関連を考察させ，事象の意味を解釈，説明，論立するなどの言語活動の工夫もさらに一層考えてもらいたい。また，その時間で習得した知識や考え方がどれほど定着しているのかをみることが大切である。それによってつまずきを支援したり，教員の授業改善につながったりする。習得した見方・考え方をもとに，違いや，別の事象が起こった理由を考察させることにより新たな概念である，成長した見方・考え方を身につけることができるのではないか。

・３点目，単元について。単元で習得させた知識はどのように関連しているのか，個別的な知識をどのように成長させていくのかを整理することによって，単元で身につけさせたい概念が明らかになる。

知識を構造的に整理した単元構成をすることで，単元で植え付けさせたい知識が明らかとなり，より深い思考をともなう授業となる。以上のように，地域教材の活用，習得された知識の活用，グループ活動の工夫によって生徒が自ら考える授業づくりを進めることで，広島県のすすめる主体的な学びにつながると考えられる。

分科会報告　　公民的分野

授業提案　　「財政と国民の福祉～これからの社会福祉について～」
レポート発表　「『思考力･判断力･表現力を育成するための公民的分野の授業実践』～仮説設定・修正の反復による多面的・多角的なものの見方の獲得を通して～」

授業提案者	福山市立城南中学校	渡邉　頼史	教諭
レポート提案者	広島市立城山北中学校	松原　直哉	教諭
指導助言者	広島県教育委員会 西部教育事務所芸北支所	川上　貴志	指導主事
司会者	福山市立加茂中学校	村井　眞司	教頭
記録者	福山市立大成館中学校	水谷　憲人	教諭

1　授業者から

「これまでの実践の中で，社会保障の充実を考える際，保険料と税収とを混同してしまい，つまずく生徒の姿があった。日頃から自分が話している時間を計り，生徒が思考する時間を確保するように意識している。生徒が思考するためには，基礎的な知識の教え込みも必要である。そのバランスを考えながら単元を構成し，本時の授業を単元のまとめに設定した。生徒はよく考えてくれた。私自身がしゃべりすぎた。

『保険料を増やさず，保障を充実させる方法を考える』ことに対して，生徒から『２つの条件を満たす方法を考えることは無理だ』という意見が出たが，しっかり思考した上で，『２つの条件を満たすことは理想であるが現実的には厳しい』ということに辿り着ければゴールと事前に考えていた。そこから，自分のことに置き換えて，今後自分達がこの社会で生きていかなければならないと考えさせることができればよかった。次の授業で消費税の増税について扱う際に，当事者として議論できる力をつけさせたい。

単元を通して考える力をつけること，また本来持っていた力から授業を通して新しい力を身につけ，ひらめく力をつけようと思った。」

2　研究討議（授業提案）

質問者：「資料を分かりやすく準備され，生徒が既習事項をフルに使いながら，話し合っていた姿が印象的だった。質問を２点。１点目は，授業の最初

に借金時計を見せられて，協議の中身は社会保障の充実となっていたが，財政に力点を置いたのか，社会保障の在り方に力点を置いたのかという点。

２点目は，チャートの使い方について，国の借金を減らすために，『負担を増やし，保障を削減させる』という考え方も出来ると感じたが，条件の限定の付け方をどのように考えたか」

授業者：「１点目について，単元は財政であるが，目標は高齢社会を迎えた日本の財政の課題を読み取り，今後どのような対策をしていくべきかという社会保障の在り方をメインに考えていた。２点目について，チャートを活用した理由として，視覚的に捉えさせたい，理想を出させたいというねらいがあった。今後，チャートの使い方についても考えていきたい。」

質問者：「本時以前で，財政の問題点を考えていると思うが，どのように本時とつながっているのか」

授業者：「前時では，歳出と歳入についてや社会保障の割合に関する資料の読み取りを中心に進めた。生徒から 100 兆円の社会保障給付費が歳出を大きく上回っている点が一番の問題点であると意見が出た。これが財政を圧迫するのではないかと話をして本時につなげた。単元全体では，税金の種類や累進課税制度，世代間扶養などについて，教え込みと考える授業を交互に行なってきた。」

質問者：「アクティブ・ラーニングを進めていく上で，どこでしっかり教え，どこでじっくり考えさせるのかを単元全体で考えていく必要があるが，先生が，『考える』についてどんなことを配慮しているのか」

授業者：「出来る生徒と出来ない生徒がはっきりしている。まずは書かないと始まらない。教科書の文章の穴埋めプリントなどを作成し，書き写す活動を取り入れた。

その次に資料の読み取る活動を取り入れ，最終的には，既習事項を生かせる発問を組み立てた。

生徒たちにも単元構成の流れに気づかせたいという思いもあり，どの単元でも同じ流れになるよう配慮してきた。」

3　レポート提案者から

本実践では，連続した４つの授業ではないが，価格の決まり方に関連する授業において同じ問いを投げかけることで，それらをつないで１つの単元とした。価格が決められる要因として，これらを関連して扱うことで，価格の決まり方に対する多面的・多角的な見方を獲得させることができると考えた。さらに生徒の常識的な認識，既習の知識では説明できない反証事例の提示し，仮設を立て，資料読解を通じて検証し，再び反証事例を提示し仮設を再設定し検証するという仮説検証の反復により，生徒の思考を揺さぶり，生徒は一面的ではない複数のものの見方を獲得させることもできると考えた。

質問者:「単元を貫く問いが考えられていた点，予想と検証の繰り返しにより，知識が更新されていくことを生徒自身に実感させている点に見るべきものがある。改善策として，単元の学習前に書いたレポートと学習後に書いたレポートを比較して，自分がどのように変化したかを他者と交流できる場面があれば自己理解がもっと深めるのではないかと感じた。」

授業者:「生徒自身が成長をより実感するためのいいアイデアだと思う。活用していきたい。」

質問者:「単元の中で，他者との交流や集団思考については，どのように取り入れているのか。」

授業者:「資料の読み取りや需給関係の変化についてなどはグループ活動を取り入れた。」

質問者:「生徒同士による相互評価や自己評価の交流などの取り組みはされているのか。」

質問者:「石油に関するレポートの評価基準はどのように設定しているのか。」

授業者:「生徒同士の交流はしたいが，出来ていない。各クラスの一番いい成果物を前に写して，評価し共有することを行った。評価基準について，Ｂ評価としては，資料を使って，需給関係から説明できていればいい。複数の資料を読み取り，不必要な資料への言及もあればＡ評価と考えている。」

4　助言者から

・授業提案の良さについて２点。１点目は，子どもたちの実態をもとに社会科として課題となる力を分析して授業が構成されている点。本時では，複数の資料を活用する力や他者に考えを伝える力をつけるため，資料の読み取りやペアトーク，グループ学習を取り入れていた。答えが一つではない問いに対して，「最善解」

を求め，追求していく中で社会的思考は深まるという視点を大切にしてほしい。２点目は，考える授業に向けての問い・教材づくりがなされている点。本時では，複雑な要因が絡む社会事象に対して価値判断を迫る問いであり，生徒の思考を促す工夫がなされていた。これは，主権者教育に関わる価値ある授業であった。

・授業提案の改善点は，単元でつける力のさらなる具体化である。生徒が何を根拠に，どのような見方や考え方を拠り所にして，価値判断や合意形成をしていくのかという生徒の姿の具体化の精度を高めていくことが求められる。大切なのは，これまで学習してきたことを活用して，それを意識して価値判断や合意形成をしようとしているかどうかである。

・レポート提案のよさについて３点。１点目は，「なぜ」という問いを有効に設定し，その解答を想定した上で単元を構成し，社会の見方や考え方をつけさせている点である。社会的思考の中核は，目に見える社会的事象の裏にある，一見目に見えない要因や因果関係に気付かせることである。

「なぜ」に対する答えを説明させる言語活動は，社会的な思考・判断・表現力を育成する上で有効な手立てといえる。２点目は，生徒たちが学んだ知識や見方・考え方では説明しきれない事例を意図的に提示し，生徒に「認知的不協和」を感じさせることで，生徒の学習意欲を高め，成長させる単元構成をしている点である。３点目は，単元を通して身に付けた見方や考え方を活用する時間を設定している点である。単に学んだことをまとめるだけでなく，学んだ知識を「使えるな」という感覚を持たして，さらに学習意欲を高める効果も期待できる改善案をつくられていた。

・レポート提案に関して，今後充実してほしいことは，評価基準の精度を高めることである。実践では，ＡＢＣ基準をもとにして，一人一人の学びをきめ細やかに評価されて，授業改善に生かしている点は学ぶべき点である。

県内各地の実践からも感じることであるが，ＡＢＣ基準を設定する際，ややもするとＡ基準がＢ基準になっていることがある。Ａ基準の評価というのは，例えば，本時で学んだ事例を超えて，生徒が主体的に本時で扱っていない類似の事例を引用しているような状態である。ＡＢＣ基準の精度を高めて，研究を進めていってほしい。

授業提案を終えての感想

【地理的分野】

授業提案者　福山市立城南中学校　　村本　彩子　教諭

単元　　「アフリカ」

今回，平成 27 年度第 1 回中国ブロック中学校社会科教育研究大会（広島大会），第 46 回広島県中学校社会科教育研究大会（福山大会）において，授業提案をさせていただきました。私が初任者の時に，前回の福山大会に参加しました。社会科授業研究のスタートを切った年と同じこの城南中学校で，自分が教壇に立ち，このような貴重な経験をさせていただいたことに心から感謝しています。

本大会に向けて，山田秀和准教授（岡山大学大学院教育学研究科）に指導助言をいただきながら，『脱皮を促す社会科』をめざして授業改善を進めてきました。「脱皮」とは，生徒が既存の知識では説明できないような事象に出会った時，「なぜだろう」という疑問を持ち，それを課題として追究することによって新たな知識や社会認識を獲得すること，と捉えています。

今回，特に取り組んだ自分の指導上の課題は，大きく２点です。１つ目は，教師主導で説明中心の展開が多く，生徒が主体的に学ぶ授業とは言えないこと。２つ目は知識を教えることに偏っており，生徒の思考する場面が少なく，また思考が浅いこと。そのため，生徒は具体的な事象と抽象的な概念をつなげて理解することができず，社会認識を育成することができていないと考えました。

そこで，次の点について意識して授業づくりを進めてきました。

１つ目の課題については，既習の知識では説明できないような事象と出会わせる導入の工夫です。

「おかしい」「○○であるにも関わらず，なぜ△△になっているのか？」という疑問（ズレ）を生徒から出させ，そのズレを学習課題に設定するよう意識しました。疑問に対して生徒に予想させ，それを資料を活用しながら検証する活動を通して，新たな知識・概念の獲得へと深めていきます。導入を工夫することは，生徒が主体的に社会科の学びに参加する入口であると考えます。

２つ目は，協働的な学びを日常的に取り入れる工夫です。ペアトークや小グループで意見を交流することによって，自分が知らなかったことに気付いたり，自

分の意見を相手に説明しようとしたりする姿勢が生まれます。そのために，各教室に設置してあるホワイトボードを活用する場面を積極的に設定し，慣れることができるようにすると共に，協働的な学びの楽しさや重要性と生徒が意識できるようにしました。

本時の授業は,「アフリカ」の単元のまとめの時間として設定しました。経済発展が著しい反面で，貧困の悪循環から抜け出すことができないアフリカ州の現実を主題に起き，生徒のつまずきである「思考・判断・表現力」の育成という視点で授業を計画しました。さらに，貧困から抜け出せない理由を説明して終わるのではなく，自分の身近なこととして世界の様々な課題を意識させたいと考え，チャレンジ課題として「アフリカが貧しさから抜け出すために何が必要か」という問いに発展させました。まず変化する世界でどの部分を，何を材料にしてどのようにとらえさせるのかという点にとても悩みました。また，単元全体を意識して授業を組み立てることの難しさも実感しました。

これらの取組みを通して，課題がたくさん見えてきましたが，自分の授業づくりについての考え方が本当に大きく変わりました。生徒が「地理面白いな」「勉強って役に立つな。大事だな」と実感できるような授業をこれからも創っていきたいと思います。

最後になりましたが，本大会に際して，山田先生，友道校長先生をはじめ多くの方々にご指導をいただき，また支えていただいたことに心から感謝しております。本当にありがとうございました。

【歴史的分野】

授業提案者　福山市立城南中学校　　榊原　誠　教諭
単元　　「近世の日本　～近世の福山～」

今回，平成 27 年度第 1 回中国ブロック中学校社会科教育研究大会（広島大会），第 46 回広島県中学校社会科教育研究大会（福山大会）において，研究授業を担当でき，私の教職人生において大変有意義な機会でした。当日の授業はもちろんのこと，授業に至るまでの過程において様々な先生方からご指導，ご助言及び授業後の研究協議で大変貴重なご意見等を頂き，改めて今大会が有する価値の大きさを実感することができました。

同時に，今後の私自身の社会科の授業に対する見方や考え方が変わらざるを得ないものとなりました。それは以下の 3 点に集約されます。

1 点目は，思考を促す授業展開を本時の授業において確実に仕組ませるというものです。教科書や資料集，または自主教材を用いて，それらから情報を多面的・多角的に読み取ることの重要性を再確認することが出来ました。

2 点目は，授業を通して，生徒が脱皮（成長）し，確かな変容を自覚させるというものです。そのためには，例外事例や反証事例を様々な資料を用いて提示し，生徒自身が有している固定観念を覆させることの重要性を学ぶことが出来ました。改めて，教材研究の更なる充実と教育手法の工夫・改善に積極的に取り組まなければならないと痛感しました。

3 点目は，能動的な学習形態いわゆるアクティブ・ラーニングを授業に効果的に取り入れるというものです。今回の授業実践では，前半は生徒の反応は少し鈍く，若干の固さが見られていましたが，グループ学習による展開以後は見違えるように学習に対して，のびのびと積極的に行動する姿が大変印象に残りました。明らかに本時の授業中に生徒たちが変容した姿を目の当たりにしたことで，アクティブ・ラーニングの重要性を感じることが出来ました。

また，今回の研究授業で「近世の福山」を教材として展開したことを振り返ると，「郷土」に対して改めて考えさせられました。生徒たちに，ふるさと福山に対して，郷土を愛する気もちを育成させることは授業の大きな目標でした。私自身の福山に対する深い思いを更に深化させていくきっかけにもなりました。今回の授業実践の前に複数回，実際に福山城へ赴き，様々な方々の話を伺う中で，「自分

は福山について色々なことを知っていると思っていたが，実はほとんど知らなかった」ということがわかりました。この授業を機に福山城以外の事項に関する研究を進め，ふるさと学習のさらなる充実に努めたいと思います。そして，将来の日本や福山を背負って活躍する生徒たちに対し確実に還元していきたいと思います。

最後になりますが，今回このような形で無事に大会終了を迎えることが出来ましたのは，ひとえに校長先生をはじめ，各先生方のご指導・ご支援があったからです。この場をおかりして厚く御礼を申し上げます。有り難うございました。今後ともご指導を宜しくお願いいたします。

【公民的分野】

授業提案者　福山市立城南中学校　渡邉　頼史　教諭
単元　　「財政と国民の福祉」

今回，平成27年度第1回中国ブロック中学校社会科教育研究大会（広島大会），第46回広島県中学校社会科教育研究大会（福山大会）において，研究授業を担当させていただいたことは，私自身にとって貴重な経験となりました。今までも研究授業は何度か，担当させていただきましたが，1つの授業を1学期の始めから，11月まで考え練ったことはありませんでした。

1つの授業を練る過程で，単元の構成を見直し，研究授業を行うにあたって生徒にどのような知識を身に着けさせる必要があるのかを熟考することができました。改めて，教材研究の大切さや，教材準備の大切さを学ぶことができました。

また，この授業を構成するにあたって，多くの先生方からアドバイスやお話を伺う機会を頂きました。今まで知らなかった知識や，自分とは全く違う視点から授業を見ていただいたことは，自身の考えの幅を広げ，新しい視点をつくるのにとても役に立ちました。実際に何度も授業や，指導案，教材を見ていただいたことにより，授業における課題や，教材の良し悪しをしっかり考えることができました。この2つのことから私が学んだことは以下の通りです。

1つ目は，単元の構成です。今まで，様々な場面で単元構成の重要性は学んできたつもりでしたが，今回の研究授業に対して改めて単元の構成を，学習指導要領から見直しました。本時の授業だけでは，授業の内容を生徒に身に着けさせることは困難で，そこまでに何を教え，どのような知識を身に着けさせておかなければいけないのかということを考えることができました。

2つ目は，思考をするということの大切さです。社会科はどうしても，教師が主体となって，「教え込む」授業になってしまいます。実際に教員がしゃべる時間と，生徒がしゃべる時間を計測してみると，50分の授業で30分教員がしゃべり，生徒は5分もしゃべっ

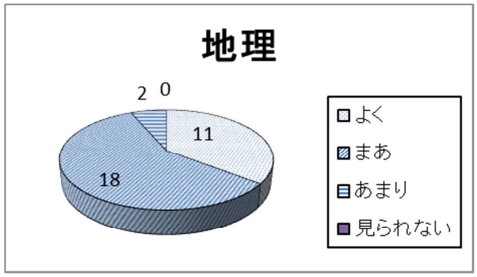
ていないという授業がありました。これでは，自分の思ったことや考えを相手に伝えることはもちろん，考えの幅を広げることがとてもできません。「教え込む」ことも必要ですが，しっかり考え，生徒間でその考えを共有させることも，重要だと気づかされました。

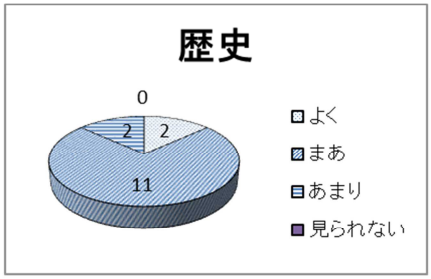
最後になりますが，今回このような機会を与えてくださったことに大変感謝しております。また，今回の授業を無事終えることができたのも，ひとえに校長先生をはじめ，各先生方の指導・支援の御かげであると思っております。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。有り難うございました。今後ともご指導宜しくお願いいたします。

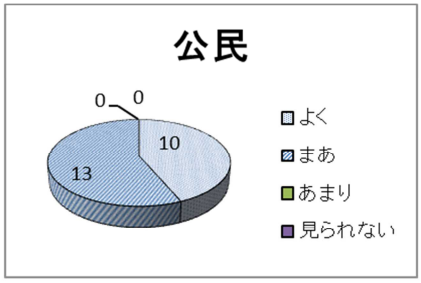
参考資料

【参加者へのアンケート調査より】

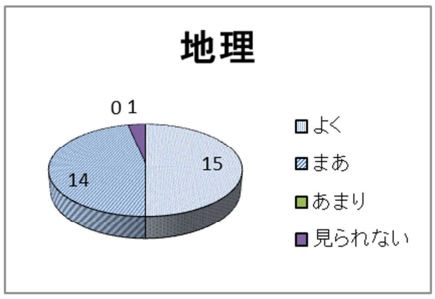
1　本日の授業で，研究主題への工夫が見られましたか。

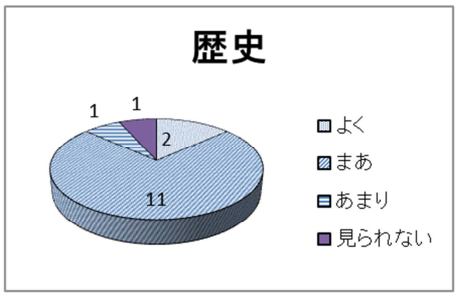


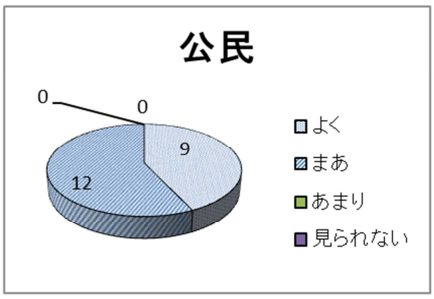




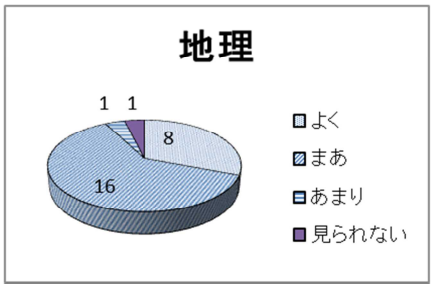
2　本日の授業や研究協議は参考になりましたか。

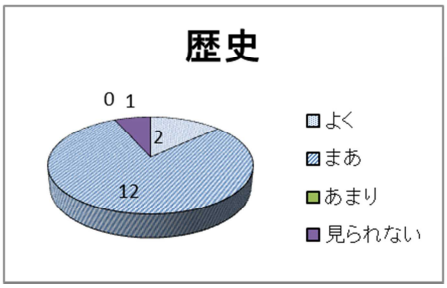


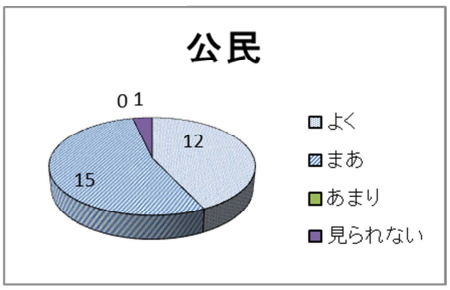




3　分科会提案や研究協議は参考になりましたか。







どの提案，分野においても肯定的評価が高く，提案性が高い発表内容であったと言えます。また，講演および研究発表全体を通して気づきや感想を記述方式で書いていただいたものを次ページ以降に紹介させていただいておりますので，参考にご覧ください。

4 講演を聞いての感想　～抜粋～

○講演の内容も具体と抽象を行き来しており，非常にわかりやすかった。今後の実践に生かしたい。
○具体と抽象の往還について，単元や授業の中で，どのようにしていくべきなのかが分かりました。少しずつですが，これからの実践に生かしていきたいと思います。
○授業づくりにおいて参考となるところがたくさんありました。こういう子どもを育てたいという強い気持ちを持って，また日々頑張って行こうという思いを改めて実感しました。
○新しい概念として(脱皮)ということを知った。これからこの脱皮を意識して授業構成をしていきたい。
○生徒が自ら学ぶ授業にするための工夫が多く，自分自身の授業に取り入れたいと思う部分が多かった。特に，資料同士の関連性を持たせて，複数の資料を組み合わせて，さらに発展的な考えを持たせる活動を実践したいと思いました。
○課題ってどうやってたてよう。生徒にどうやって課題発見させようと日々悩んでいます。課題を立て，良い授業にするためには何をするべきか，どうするべきかのヒントが見つかったように思います。
○今後の社会科の在り方会を考えさせる大変参考となる講演でした。評価づくりや試験の在り方の課題を解決する必要がありますが…。
○具体と抽象の組み合わせによって，自ら問いを持てるような生徒を育てていきたい。
○社会科のこれからのあるべき姿が見えてきてよかった。
○日常の中にある事象にどれだけ「問い」を持つことができるか。先生のお言葉をお借りすれば(往還)することができるか。という点は非常に興味深かったです。
○毎日の授業で実践できないかもしれないが，「突っ込みを入れる」視点を持ち，生徒たちと深い学びを探っていきたいと思えました。抽象と具体の往還は日々取り組みたいと思った。
○教師による「突っ込み」の姿勢が生徒の問いにつながるという考えに，とても納得しました。
○「こんな子供を育てたい」まずは自分が教材研究をしなければと思いました。
○すごく勉強になり，参考になりました。地・歴・公の垣根を越えて展開していきたい。
○世界の動向から，授業の問の在り方まで説明していただき勉強になりました。
○すとんと落ちる講演でした。何となく直感的にやっていることを，きちんと整理して，理論づけてもらったような気がします。

5 全体を通しての感想　～抜粋～

○城南中生徒の学ぶ姿勢，とても素晴らしかったです。グループでのまとめ，発表内容のレベルの高さに驚かされました。
○参加してみて大変良かったです。[主体的]に学ぶ，そういう授業づくりに対してまた新たなヒントをいただくことができました。ありがとうございました。
○社会科におけるアクティブ・ラーニングの有効性，活用方法について，まだまだ突っ込んだ議論がしたかったような気がする。次回以降，この大会が実りあるものに発展していくことを記念しています。ありがとうございました。
○授業実践も講演も，生徒が主体的に学習に取組むためのヒントが多かったと思います。毎回の授業づくりや単元構成を考える際に，常に意識していきたいと思います。ありがとうございます。
○初めての中国大会でしたので運営お疲れ様でした。研究協議など午後のみでは少し，協議する時間が少なかったような気がします。
○他校の先生の実践を見ることで，ポイントがどこなのか，ねらいをどこに置くかなどの教師側の教材研究が大切であるとわかった。
○授業の指導案や生徒への配布資料は配っていただけるとありがたかったです。会場の都合もあったとは思いますが，後ろの方からではパワーポイントが全く見えませんでした。手持ちの資料があればありがたかったです。
○授業では特殊な機器を使わなくても，どこの学校でも時間と労力をかければできる授業でとても参考になりました。生徒に 3 つの資料を準備するのは大変と思いますが，工夫されたものになっていたと思います。
○アクティブ・ラーニングの実践的な取り組みは参考になりました。また，「目当て」と【発問】が共存していた。
○社会科の課題というより，授業する単位として 40 人学級は厳しいと感じる。そのような中，生徒たちが積極的に取り組んでいて，先生方のこれまでの指導の成果が現れていたと思います。ありがとうございました。
○大会運営は素晴らしかった。今後も継続していかれることをお祈りいたします。
○一つの学校から 3 つの授業を提供することは大変であるし，大学との連携も不可欠だと感じました。提案性のある授業にするためには，理論的な裏付けが必要であると思いました。
○いくつかの学びがあり満足しています。中でもアクティブ・ラーニングについては関心がありました。しっかり練られた教育研究大会，ありがとうございました。
○授業者の熱意と苦労を感じるものでした。
○公民的分野の授業では，指導案も授業も生徒の活動する場面が仕組まれており，研究主題に迫る物でした。
○本県の「学びの変革アクションプラン」の理解するうえで，大変参考になりました。

研究大会要項

１　研究主題

「生きる力を育む社会科学習の創造」
～生徒が自ら考え学ぶ授業づくり～

２　期　日　　平成２７年１１月９日（月）
３　会　場　　福山市立城南中学校　　まなびの館ローズコム
４　日　程

10:15　10:55　11:45　13:00　14:20　15:10　16:30　16:40

受付	研究授業（城南中）	移動及び昼食	研究協議及び分科会	休憩	開会行事	記念講演	閉会行事

14:30

５　研究授業

分　野	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
教　室	１４Ｒ教室	２４Ｒ教室	３６Ｒ教室
学　年	第１学年	第２学年	第３学年
単元・題材	アフリカ ～植民地支配と産業のかかわり～	近世の日本 ～近世の福山～	財政と国民の福祉 ～これからの社会福祉について～
授業者	福山市立城南中学校 村本　彩子　教諭	福山市立城南中学校 榊原　　誠　教諭	福山市立城南中学校 渡邉　頼史　教諭

６　研究協議及び分科会

分科会	第１分科会	第２分科会	第３分科会
授業学年	第１学年	第２学年	第３学年
単元・題材	アフリカ ～植民地支配と産業のかかわり～	近世の日本 ～近世の福山～	財政と国民の福祉 ～これからの社会福祉について～
授業者	福山市立城南中学校 村本　彩子　教諭	福山市立城南中学校 榊原　　誠　教諭	福山市立城南中学校 渡邉　頼史　教諭
レポート	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
発　表 テーマ	『反転学習とアクティブ・ラーニングの手法を用いた授業の実践』 ～地理的分野「アジア州」の学習を通して～	『地域教材を用いた，生徒の思考力を育成する授業』 ～なぜ，江戸時代期の鞆の浦は，海運の拠点として発展したのか～	『思考力・判断力・表現力を育成するための公民的分野の授業実践』 ～仮説設定・修正の反復による多面的・多角的なものの見方の獲得を通して～
発表者	福山市立福山中学校 長谷川　進　教諭	福山市立鞆中学校 前田　良介　教諭	広島市立城山北中学校 松原　直哉　教諭

司会者	福山市立福山中学校 脇　祥貴　教頭	福山市立鞆中学校 植田　昌広　教頭	福山市立加茂中学校 村井　眞司　教頭
記録者	福山市立東朋中学校 前田　正之　教諭	福山市立新市中央中学校 重元　祐子　教諭	福山市立大成館中学校 水谷　憲人　教諭
指導 助言者	福山市教育委員会 指導課 清水　修一　指導主事	広島県教育委員会 義務教育指導課 向井　昌行　指導主事	広島県教育委員会 西部教育事務所芸北支所 川上　貴志　指導主事

7　開会行事

（１）主催者あいさつ

中国ブロック中学校社会科教育研究会　会　長　北﨑　俊司

（２）来賓祝辞

全日本中学校社会科教育研究会　会　長　石上　和宏　様

広島県教育委員会　参　与　田坂　裕一　様

（３）来賓ならびに指導・助言者の紹介

（４）基調提案　大会実行委員会　研究部長　丸尾　和正

（５）分科会報告

8　記念講演

演題「課題発見・課題解決の力を育成する社会科授業づくり」

講師　岡山大学大学院教育学研究科　准教授　山田　秀和　先生

9　閉会行事

（１）主催者あいさつ　大会実行委員長　友道　健氏

（２）次期開催地代表あいさつ　岡山市立竜操中学校長　堀井　博司

大会役員・実行委員会

役職			氏名	所属校
大会会長			北　﨑　俊　司	広島市立大塚中学校
大会副会長			友　道　健　氏	福山市立大成館中学校
			河　内　琢　爾	広島市立高陽中学校
			高　石　元　子	府中市立府中明郷中学校
実行委員長			友　道　健　氏	福山市立大成館中学校
副実行委員長			水　船　泰　典	福山市立精華中学校
			胃　甲　　登	福山市立東朋中学校
			二　畑　芳　信	福山市立大門中学校
			和　田　啓　介	福山市立常金中学校
			荒　木　政　美	福山市立鳳中学校
事務局	総務	事務局長	丸　尾　和　正	福山市立神辺西中学校
		事務局次長	土　屋　克　義	福山市立向丘中学校
		会　計	重　松　宏　政	福山市立東朋中学校
	研究	部　長	山　口　義　哉	福山市立神辺中学校
		副部長	長　谷　川　進	福山市立福山中学校
			前　田　良　介	福山市立鞆中学校
	授業づくり	部　長	小　野　大　助	福山市立城南中学校
		副部長	村　本　彩　子	福山市立城南中学校
	運営	会場運営	柏　原　正　志	福山市立松永中学校
			住　谷　勇　紀	福山市立駅家南中学校
		庶　務	金　島　康　司	福山市立駅家中学校
			山　縣　　崇	福山市立城北中学校